

◎指示があるまで開かないこと。

(令和5年2月5日 13時35分～15時10分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

(例1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

<p>答案用紙①の場合、</p> <p>101 <input type="radio"/> a <input type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input type="radio"/> e</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>101 <input type="radio"/> a <input type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input checked="" type="radio"/></p>	<p>答案用紙②の場合、</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">101</td> <td style="text-align: center;">101</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> a</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> a</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> b</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> b</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> c</td> <td style="text-align: center;">→ <input type="radio"/> c</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> d</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> d</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> e</td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="radio"/></td> </tr> </table>	101	101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/>
101	101												
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a												
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b												
<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c												
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d												
<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/>												

- 1 介入研究はどれか。
 - a 横断研究
 - b コホート研究
 - c 症例対照研究
 - d ケースシリーズ研究
 - e ランダム化比較試験(RCT)

- 2 やせと続発性無月経の学生アスリートの診療で注意すべき合併症はどれか。
 - a 瘰癧
 - b 脂肪肝
 - c 骨粗鬆症
 - d 下垂体腺腫
 - e 子宮腺筋症

- 3 女性の骨盤内炎症性疾患を最も示唆する身体所見はどれか。
 - a 帯下の悪臭
 - b 脾臓の触知
 - c 子宮口の開大
 - d 下腹部腫瘤触知
 - e Douglas 窩の圧痛

- 4 トリアージタグ〈識別札〉について誤っているのはどれか。
- a 傷病者識別のために使用する。
 - b 我が国の規格は統一されている。
 - c 装着はどの部位に付けても構わない。
 - d 多数の傷病者が同時発生したときに使う。
 - e 死亡している場合は黒色タグを装着する。
- 5 瞳孔異常をきたす原因と所見の組合せで誤っているのはどれか。
- a 急性緑内障発作 ————— 散 瞳
 - b 交感神経作動薬 ————— 散 瞳
 - c Horner 症候群 ————— 散 瞳
 - d 動眼神経麻痺 ————— 散 瞳
 - e 有機リン中毒 ————— 縮 瞳
- 6 写真(別冊No. 1A～E)を別に示す。
気管挿管に用いる器具はどれか。
- a A
 - b B
 - c C
 - d D
 - e E

別 冊 No. 1 A～E

7 失神している患者の心電図モニターの波形(別冊No. 2)を別に示す。

直ちに投与すべきなのはどれか。

- a アトロピン
- b アドレナリン
- c ジアゼパム
- d ベラパミル
- e リドカイン

別 冊

No. 2

8 広範な筋肉内出血の原因となるのはどれか。

- a 後天性血友病 A
- b 本態性血小板血症
- c 抗リン脂質抗体症候群
- d 免疫性血小板減少性紫斑病
- e IgA 血管炎〈Schönlein-Henoch 紫斑病〉

9 成人の三角筋での筋肉注射で、注射部位が遠位側にずれると起こりやすくなる合併症はどれか。

- a 肩関節障害
- b 肩腱板損傷
- c 血栓性静脈炎
- d 橈骨神経損傷
- e 上腕動脈損傷

- 10 生活習慣の改善で発症予防が期待できる疾患はどれか。
- a 歯周病
 - b 1型糖尿病
 - c 悪性リンパ腫
 - d 急性骨髄性白血病
 - e 原発性アルドステロン症
- 11 行動変容のステージと患者へのアプローチの組合せで適切なのはどれか。
- a 無関心期 ————— 目標の設定
 - b 関心期 ————— 情報の提供
 - c 準備期 ————— 行動計画の作成
 - d 実行期 ————— 罰則の設定
 - e 維持期 ————— 支援の終了
- 12 成人の動脈血ガス分析を目的とした大腿動脈からの採血について正しいのはどれか。
- a 穿刺針の太さは18Gを選択する。
 - b 動脈の走行は目視で確認する。
 - c 皮膚に対して直角に穿刺する。
 - d シリンジに十分な陰圧をかける。
 - e 抜針後に穿刺部位をよく揉む。

13 疾患と特徴的な症候との組合せで誤っているのはどれか。

- a 関節リウマチ ————— 中足趾節関節の腫脹
- b 乾癬性関節炎 ————— 遠位指節間関節の腫脹
- c 強直性脊椎炎 ————— 安静により改善する腰背部痛
- d Sjögren 症候群 ————— 舌乳頭の萎縮
- e 皮膚筋炎 ————— 頸部における屈筋優位の筋力低下

14 腹部の触診で正しいのはどれか。

- a 健常者の膀胱は深吸気時に触知する。
- b 健常者では両側の腎臓全体を触知する。
- c 反跳痛は除圧時より加圧時の痛みが強い。
- d Murphy 徴候は患者が大きく息を吐いた時に評価する。
- e McBurney 圧痛点は臍と右前上腸骨棘を結ぶ線上外側 1/3 にある。

15 視診後の腹部診察順として正しいのはどれか。

- a 触 診 → 打 診 → 聴 診
- b 触 診 → 聴 診 → 打 診
- c 打 診 → 聴 診 → 触 診
- d 打 診 → 触 診 → 聴 診
- e 聴 診 → 打 診 → 触 診

16 人を対象とした介入を伴う医学研究を実施するにあたり、倫理審査前に行わなければならないのはどれか。

- a インフォームドコンセントの取得
- b 研究参加希望者の適格性の判定
- c データの収集・解析方法の計画
- d 研究協力者への謝金の支払い
- e 治験薬剤の投与

17 プロトロンビン時間の測定を行う血液検体に最も適した抗凝固剤はどれか。

- a EDTA
- b ヘパリン
- c ワルファリン
- d フッ化ナトリウム
- e クエン酸ナトリウム

18 アナフィラキシーにおけるアドレナリン投与について適切なのはどれか。

- a 皮下に投与する。
- b 妊婦には使用しない。
- c 自己注射が認められている。
- d 不整脈がある場合は使用しない。
- e ショックになってから投与する。

19 食事摂取基準の指標の概念図(別冊No. 3)を別に示す。

ほとんどの人が1日の必要量を満たすと推定される1日の摂取量(推奨量)はどれか。

- a A
- b B
- c C
- d D
- e E

別 冊 No. 3

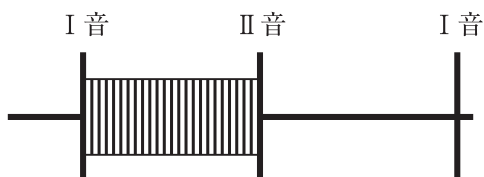
20 初発症状が肉眼的血尿とならないのはどれか。

- a 腎 癌
- b 腎盂癌
- c 膀胱癌
- d 前立腺癌
- e 精巣腫瘍

21 患者の服薬アドヒアランスを向上するための医師の行動として適切なのはどれか。

- a 処方日数を長くする。
- b 薬の飲み忘れを叱責する。
- c 副作用の説明を省略する。
- d 内服回数を可能な限り分割する。
- e 疾病や治療についての患者の理解を確認する。

22 心尖部に以下の模式図に示すパターンで心雑音が聴取される疾患はどれか。



- a 僧帽弁狭窄症
 - b 僧帽弁閉鎖不全症
 - c 大動脈弁狭窄症
 - d 大動脈弁閉鎖不全症
 - e 動脈管開存症
- 23 第一次世界大戦とほぼ時期を同じくしてパンデミックがみられた感染症はどれか。
- a エボラ出血熱
 - b インフルエンザ
 - c 鳥インフルエンザ(H5N1)
 - d 中東呼吸器症候群(MERS)
 - e 後天性ヒト免疫不全症候群(AIDS)
- 24 標準予防策(standard precautions)について正しいのはどれか。
- a 滅菌手袋を着用する。
 - b 感染症と診断してから実施する。
 - c 次亜塩素酸ナトリウムで手指衛生を行う。
 - d 患者が嘔吐している場合は撥水性ガウンを着用して診察する。
 - e 患者の唾液が付着した木製舌圧子は一般廃棄物として処理する。

- 25 膝蓋腱反射について誤っているのはどれか。
- a 末梢神経障害で低下する。
 - b 下肢の力を抜くように指示する。
 - c 両上肢の随意把持努力により減弱する。
 - d 大腿四頭筋の収縮により下腿が前方に上がる。
 - e ハンマーのバランスのよい部分を持って診察する。

26 28歳の女性(0妊0産、挙児希望あり)。息切れとめまいを主訴に救急車で搬入された。6か月前から月経血量が増え、夜中に夜間用ナブキンを超えて出血する回数が多くなった。最近階段を昇るときに息切れを自覚していた。1週間前に産婦人科を受診し、骨盤部MRI検査を行った。3日前から月経が始まり、昨晚から多量の性器出血があり、朝にはめまいが出現し起立できず、救急車を要請した。1年前の子宮頸がん検診で異常は指摘されていないという。顔面蒼白だが、意識は清明。身長160 cm、体重52 kg。体温36.4℃。心拍数120/分、整。血圧80/42 mmHg。呼吸数22/分。SpO₂99%(room air)。血液所見：赤血球182万、Hb 4.5 g/dL、Ht 17%、白血球6,700、血小板21万、PT-INR 1.0(基準0.9~1.1)。血液生化学所見：総蛋白6.7 g/dL、アルブミン3.2 g/dL、直接ビリルビン0.3 mg/dL、AST 24 U/L、ALT 22 U/L、LD 138 U/L(基準120~245)、 γ -GT 17 U/L(基準8~50)、尿素窒素20 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 105 mEq/L、Fe 14 μ g/dL、フェリチン10 ng/mL(基準20~120)。心電図に異常を認めない。腔鏡診で腔内に多量の凝血塊を認める。内診(双合診)で子宮長は10 cmを超えるが可動性は良好、子宮下部に弾性硬の腫瘤を触知する。骨盤部単純MRI T2強調矢状断像(別冊No. 4)を別に示す。

この患者で酸素投与、静脈路確保、心電図モニタリングに引き続き直ちに行うべき治療はどれか。

- a 赤血球輸血
- b 鉄剤静脈内投与
- c 内分泌(ホルモン)薬による治療
- d 子宮全摘出術
- e 子宮動脈塞栓術

別 冊

No. 4

27 8か月の男児。けいれんが続くため自宅でジアゼパムの坐薬を使用した。けいれんが消失しないため救急車で搬入された。熱性けいれん重積の既往がある。来院時、呼びかけに反応せず、口から泡を吹き、上下肢の強直間代性けいれんが30分以上持続している。体温 38.6℃。心拍数 156/分、整。呼吸数 24/分。SpO₂ 92% (room air)。フェイスマスクから 2 L/分の酸素を投与したところ SpO₂ は 98% に上昇した。末梢静脈路を確保した。

次に行うべき対応はどれか。

- a 経過観察
- b 解熱薬の投与
- c 経鼻胃管の留置
- d ジアゼパムの静脈内投与
- e 気管挿管による人工呼吸

28 40歳の女性。シュノーケリング中にうつ伏せで浮かんでいるところを発見され、救急車で搬入された。救急隊が到着した際には心肺停止状態であり、適切な処置により心拍は再開したが、入院4日目の頭部単純CTで皮髄境界消失と尿崩症を認めため、入院6日目と7日目に法的脳死判定を実施して脳死と判定された。事故の前に臓器提供に関する本人の口頭による拒否の意思表示はなかった。

この患者で臓器提供ができる根拠に該当しないのはどれか。

- a 個人番号カードの意思表示
- b 運転免許証の意思表示
- c 健康保険証の意思表示
- d 医師の承諾
- e 家族の承諾

29 83歳の女性。腰痛を主訴に来院した。持続性の腰痛に対して、自宅近くの医院で処方されたNSAIDを服用していた。一時的に疼痛は緩和したが、再び増悪したため紹介受診した。精査の結果、多発肝転移を伴う膵癌と診断された。薬物による抗癌治療などの積極的な治療を希望しなかった。食事摂取量は以前と比較し、わずかに減少している。

この患者に対する疼痛緩和としてまず行うのはどれか。

- a NSAIDの増量
- b 持続硬膜外麻酔
- c 膵癌への放射線照射
- d オピオイドの経口投与
- e 副腎皮質ステロイド投与

30 34歳の初産婦(3妊0産)。妊娠13週、妊婦健康診査のために来院した。前回妊娠は妊娠15週に、前々回の妊娠は妊娠16週に、いずれも胎胞が膨隆し自然流産している。これまでの精査で抗リン脂質抗体症候群や糖代謝異常は認めない。

適切な対応はどれか。

- a 頸管縫縮術
- b NSAID投与
- c β_2 刺激薬投与
- d マグネシウム製剤投与
- e 副腎皮質ステロイド投与

31 47歳の男性。腹部の皮疹を主訴に来院した。3日前から腹部に痛みを伴う皮疹を自覚し、改善しないため受診した。体温36.8℃。腹部から背部に皮疹が散在しており自発痛を認め、帯状疱疹と診断した。皮疹の分布図(別冊No. 5)を別に示す。

罹患した神経支配領域として正しいのはどれか。

- a 第8胸髄
- b 第10胸髄
- c 第12胸髄
- d 第2腰髄
- e 第4腰髄

別 冊

No. 5

32 4歳の男児。自宅で径3cmのぶどうを食べたとき、急に激しくむせて顔色が悪くなったため救急車で搬入された。救急車内では、意識はあるが両手で首をつかんで苦しそうにしており、救急隊員により Heimlich 法が実施されたが状況は改善しなかった。病院到着直後にモニターを装着していると意識を失った。頸動脈を触知しない。

直ちに行う処置として適切なのはどれか。

- a 開胸手術
- b 静脈路確保
- c 心肺蘇生法
- d 背部叩打法
- e 気管支鏡下摘出術

33 72歳の女性。歩く速度が遅くなったことを主訴に娘とともに来院した。最近では電車やバスを利用して外出する頻度が減り、横断歩道を青信号のうちに渡りきることが困難になった。食欲が以前より減り、ふさぎ込みがちだという。骨粗鬆症で内服治療中である。身長 155 cm、体重 38 kg。体温 36.5℃。

研修医と指導医の会話を示す。

指導医：「この患者さんの状態は、ロコモティブシンドロームと考えられます。

今後、どのような問題が生じますか」

研修医：「早めに対応しないと要介護の必要性が増加します」

指導医：「それではどのような対応が適切でしょうか」

研修医：「①上下肢の筋力訓練、②栄養指導、③こころの健康への配慮も必要です。④転倒予防の指導も重要で、⑤外出は禁止すべきです」

下線部で示した対応のうち誤っているのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

34 77歳の女性。自宅の玄関で倒れているところを家人に発見され、痛みで立ち上がれないため救急車で搬入された。普段は近所のコンビニエンスストアまで杖をついて買い物に行っている。意識は清明。心拍数 92/分、整。血圧 170/100 mmHg。SpO₂ 100% (リザーバー付マスク 10 L/分 酸素投与下)。右股関節を動かすと痛がる。右下腿に腫脹を認めず圧痛もはっきりしない。上肢の筋力低下を認めない。四肢の腱反射は正常である。感覚の左右差はない。骨盤エックス線写真(別冊No. 6)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 恥骨骨折
- b 坐骨骨折
- c 腸骨骨折
- d 股関節脱臼
- e 大腿骨近位部骨折

別 冊

No. 6

35 78歳の男性。心不全で入院中である。入院7日目に心不全が改善し、退院の準備を行うこととなった。落ちていた身体機能が回復したが、移動に歩行器が必要であった。もともと大腸癌術後で10年前から自分でストマの管理をしていたが、入院後に管理が難しくなった。妻と2人暮らし。認知機能は問題なく、服薬管理はできる。入浴、食事および整容は自立している。要介護度は要介護1である。退院後は通所リハビリテーション、福祉用具貸与および外来通院を予定している。

退院に際して、この患者に必要な介護サービスはどれか。

- a 訪問看護
- b 訪問診療
- c 訪問入浴介護
- d 訪問薬剤管理
- e グループホーム入所

36 日齢 28 の男児。1 か月健康診査のため両親に連れられて来院した。在胎 38 週、体重 3,000 g で出生した。出生後の経過は問題なく、日齢 5 に体重 2,800 g で産科診療所から退院した。母親は 24 歳、初産のため育児に自信がなく、母乳量の不足を心配している。受診時の体重 3,600 g。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。皮膚は黄染なし。外陰部に異常を認めない。自宅で平均的な 24 時間の排尿は 10 回、排便は 3 回、母親が記録した哺乳状況を示す。

哺乳の記録(平均的な 24 時間)

時刻	哺乳		時刻	哺乳	
	母乳	人工乳		母乳	人工乳
0:00	10 分間		12:00		
1:00			13:00	15 分間	
2:00			14:00		
3:00	15 分間		15:00		
4:00			16:00	10 分間	
5:00			17:00		
6:00	10 分間		18:00		
7:00			19:00	15 分間	
8:00	10 分間		20:00		
9:00			21:00		
10:00			22:00	10 分間	
11:00	15 分間		23:00		

対応で正しいのはどれか。

- a 人工乳に変更する。
- b 母乳を与える回数を増やす。
- c 母乳添加用粉末を追加する。
- d 母乳量は十分であると伝える。
- e 母乳と人工乳との混合栄養に変更する。

37 70歳の女性。右手の痛みを主訴に救急外来を受診した。前日に飼育している猫に手を咬まれ、自宅で消毒したが次第に発赤と疼痛が増強したため来院した。高血圧症で降圧薬を内服している。意識は清明。身長155 cm、体重60 kg。体温37.1℃。脈拍72/分、整。血圧136/82 mmHg。呼吸数14/分。SpO₂98%(room air)。右手背に2か所、右手掌に2か所咬傷を認め、同部位に発赤、腫脹および圧痛を認める。排膿はない。運動障害と感覚障害は認めない。創部の洗浄と消毒を行った。

さらに加えるべき対応で正しいのはどれか。

- a 創部を温める。
- b 創部を縫合する。
- c 抗菌薬を投与する。
- d 右前腕を強く縛る。
- e 猫の口腔内スワブを培養する。

38 38歳の男性。頸椎損傷の診断で3週間入院中である。自己導尿が困難で尿道カテーテルが留置されているが、尿が混濁し閉塞をきたしたため、尿道カテーテルの交換を行うこととなった。意識は清明。体温36.8℃。脈拍72/分、整。血圧110/64 mmHg。呼吸数12/分。

尿道カテーテルの交換で正しいのはどれか。

- a 体位は座位で行う。
- b カテーテルを抜去する前に固定水を抜く。
- c 外尿道口をエタノールで消毒する。
- d 新しいカテーテルの内腔に潤滑剤を注入する。
- e 今後は毎日交換する。

39 2歳の男児。発熱と鼻汁を主訴に両親に連れられて来院した。前日の夕方から38.5℃の発熱を認め、右耳をさかんに触るような様子がみられ、夜間はよく眠れなかった。来院時の体温は38.2℃で、顔色は良好だが機嫌が悪く、母親に抱かれて診察室に入ったところ、すぐに大声で泣き出した。

対応として適切なのはどれか。

- a 診察台に寝かせる。
- b 子どもに話しかける。
- c 鎮静薬を内服させる。
- d 翌日の外来受診を指示する。
- e 最初に耳鏡で鼓膜所見を確認する。

40 64歳の男性。左足底の潰瘍と安静時疼痛を主訴に来院した。2か月前から左下腿の安静時疼痛が出現し、足底の傷の治りも悪くなったため受診した。20年前から高血圧症と糖尿病で投薬治療を受けている。喫煙は20歳から40本/日。身長168 cm、体重72 kg。脈拍72/分、整。血圧158/88 mmHg。胸腹部に異常を認めない。左膝窩動脈と左足背動脈の拍動を触知しない。下肢の三次元CT血管撮影像〈3D-CTA〉(別冊No. 7)を別に示す。

この患者への説明で適切でないのはどれか。

- a 「喫煙の継続は病態を悪化させます」
- b 「足は清潔を保つようにしてください」
- c 「左膝までの血流は良好に保たれています」
- d 「傷の治りが悪いのは血行が悪いからです」
- e 「心臓を養う血管の病気をしばしば合併します」

別 冊

No. 7

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

60歳の男性。嘔吐を主訴に来院した。

現病歴 : 1年前に胃癌で胃全摘術を受け、その後外来で約8か月間抗癌化学療法を継続した。2か月前に腫瘍マーカーの上昇と肝・肺転移を指摘され、再度抗癌化学療法を受けたが、治療効果が認められず中止となった。その際に本人と家族に数か月の予後と告知され、自宅に近い当院での外来通院を希望し、転院となった。特に症状なく経過していたが、1か月前から時々腹痛を自覚し、オピオイドの定期内服とレスキューが処方されていた。1週間前から悪心を認め、今朝になり嘔吐したため受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 妻と2人暮らし。2人の子供はいずれも県外に在住している。喫煙は20歳から59歳まで20本/日。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父が胃癌のため70歳で死亡。

現症 : 意識は清明。身長175 cm、体重56 kg。体温36.4℃。脈拍92/分、整。血圧110/70 mmHg。呼吸数26/分。SpO₂96%(room air)。眼球結膜に黄染を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部はやや膨隆しているが軟で、腹部全体に圧痛があり、金属音を聴取する。心窩部に肝を触知する。両下肢に軽度の浮腫を認める。神経診察で異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球364万、Hb 10.3 g/dL、Ht 32%、白血球7,400、血小板18万。血液生化学所見：総蛋白5.9 g/dL、アルブミン2.4 g/dL、総ビリルビン0.8 mg/dL、AST 152 U/L、ALT 66 U/L、LD 387 U/L(基準120~245)、ALP 189 U/L(基準38~113)、 γ -GT 62 U/L(基準8~50)、CK 42 U/L(基準30~140)、尿素窒素28 mg/dL、クレアチニン0.9 mg/dL、血糖80 mg/dL、総コレステロール190 mg/dL、Na 143 mEq/L、K 3.5 mEq/L、Cl 92 mEq/L。Ca 10.1 mg/dL。CRP 4.5 mg/dL。胸部エックス線写真で両肺に多発小結節影を認める。

- 41 この患者の嘔吐の原因として考慮すべきもので誤っているのはどれか。
- a 肺転移
 - b 心理的要因
 - c 高カルシウム血症
 - d オピオイドの副作用
 - e 癌性腹膜炎による消化管閉塞
- 42 患者は主治医に「先生、何も悪いことはしていないのにどうして私のがんにならなければならないのでしょうか・・・」と訴えた。
- このときの医師の応答として適切なのはどれか。
- a 話題を逸らす。
 - b そう考える原因を問い詰める。
 - c 日本人の胃癌の罹患率を伝える。
 - d 視線を合わせて、次の言葉を待つ。
 - e その考えの善し悪しの評価を伝える。

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

68歳の男性。眼のかすみと足の違和感を主訴に来院した。

現病歴 : 20年前から健診で尿糖を指摘されていた。医療機関で生活指導を受けたが、転居を契機に通院を中断していた。10年前に退職してからは健診を受けていない。約2年前から両足のジンジンとした痺れを自覚していた。半年前から視力低下に気付いていたが加齢によるものと考えていた。3日前から右眼の霧視が出現した。

既往歴 : 18歳時に虫垂炎。輸血歴無し。

生活歴 : 60歳から独居。1日のほとんどを家で過ごしている。1日に1回か2回コンビニエンスストアの弁当や惣菜を食べている。喫煙は15本/日を48年間。飲酒はビール350 mL/日または焼酎1合程度/日を週5、6回。

家族歴 : 父は脳梗塞のため72歳で死亡。母は老衰のため88歳で死亡。

現症 : 身長170 cm、体重72 kg、腹囲86 cm。血圧128/72 mmHg。胸部と腹部とに異常を認めない。両眼底に軟性白斑と新生血管、右眼に硝子体出血を認める。

検査所見 : 尿所見：蛋白(±)、糖3+、ケトン体(−)、潜血(−)、沈渣に異常を認めない。血液所見：赤血球444万、Hb 12.9 g/dL、Ht 43%、白血球6,000(好中球54%、好酸球2%、好塩基球0%、単球8%、リンパ球36%)、血小板19万。血液生化学所見：総蛋白6.9 g/dL、アルブミン3.5 g/dL、直接ビリルビン0.3 mg/dL、AST 22 U/L、ALT 19 U/L、LD 186 U/L(基準120~245)、 γ -GT 17 U/L(基準8~50)、アミラーゼ152 U/L(基準37~160)、CK 132 U/L(基準30~140)、尿素窒素20 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、eGFR 72.8 mL/分/1.73 m²、尿酸4.0 mg/dL、血糖235 mg/dL、HbA1c 8.9%(基準4.6~6.2)、総コレステロール247 mg/dL、トリグリセリド64 mg/dL、HDLコレステロール51 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 105 mEq/L、Ca 9.1 mg/dL、P 3.0 mg/dL、TSH 3.0 μ U/mL(基準0.2~4.0)、FT₄ 1.2 ng/dL(基準0.8~2.2)。

- 43 この患者の足の診察をする際、優先度の低い項目はどれか。
- a アキレス腱反射
 - b 足背動脈の拍動
 - c 皮膚病変の有無
 - d 内顆の振動覚
 - e 扁平足の有無
- 44 対応で正しいのはどれか。
- a 蛋白制限食
 - b 強度の高い運動療法
 - c 1日1,200 kcalの食事療法
 - d スルホニル尿素薬による厳格な血糖コントロール
 - e 心身機能の評価をもとにした血糖コントロール目標の設定

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

56歳の女性。乾性咳嗽と呼吸困難を主訴に救急車で搬入された。

現病歴 : 昨日 38.3℃の発熱、本日、乾性咳嗽と呼吸困難が出現したため救急車を要請した。①2日前に同居している21歳の息子が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)を発症した。②息子の陽性が判明した時点で、本人は無症状だったが自宅にあった③鼻腔ぬぐい液の新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)抗原定性検査を自身で行い、陰性だったという。

既往歴 : ④48歳から高血圧症で降圧薬を内服している。新型コロナ(SARS-CoV-2)ワクチンは未接種。

生活歴 : ⑤無職。21歳の息子と2人暮らしで、最近1週間は朝食と夕食をともにしていた。喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴 : 息子が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)。

現症 : 意識は清明。身長 158 cm、体重 65 kg。体温 38.5℃。心拍数 110/分、整。血圧 148/94 mmHg。呼吸数 20/分。SpO₂ 100% (マスク 5 L/分 酸素投与下)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。咽頭に軽度発赤を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部と四肢とに異常を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)、潜血(－)。血液所見：赤血球 400 万、Hb 12.6 g/dL、Ht 38%、白血球 6,800、血小板 11 万、PT-INR 1.1(基準 0.9～1.1)。血液生化学所見：LD 236 U/L(基準 120～245)、尿素窒素 26 mg/dL、クレアチニン 0.9 mg/dL、血糖 98 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 4.5 mEq/L、Cl 102 mEq/L。CRP 3.0 mg/dL。心電図で異常を認めない。

45 下線部のうち、この患者の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の事前確率が高くなる情報はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

46 搬入時に再度施行した鼻咽頭ぬぐい液を用いた新型コロナウイルス〈SARS-CoV-2〉抗原定性検査は陰性だった。

次に行うべき最も優先度の高い検査はどれか。

- a 新型コロナウイルス〈SARS-CoV-2〉PCR 検査
- b インフルエンザウイルス迅速抗原検査
- c アデノウイルス迅速検査
- d マイコプラズマ迅速検査
- e RS ウイルス迅速検査

次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

22歳の男性。交通外傷のため救急車で搬入された。

現病歴 : 高速道路で乗用車運転中にガードレールに衝突した。乗用車は前方部分が大破し、エアバッグが作動していた。救急隊の観察結果から、搬送先の医師により酸素投与、静脈路確保および大量輸液が指示され、病院へ搬送された。

生活歴 : 大学生。アレルギー歴はない。

現症 : 意識はJCSⅡ-10。身長172 cm、体重62 kg。体温35.1℃。心拍数112/分、整。血圧98/62 mmHg。呼吸数28/分。SpO₂90% (リザーバー付マスク10 L/分 酸素投与下)。前額部に挫創を認める。眼瞼結膜はやや貧血様である。口周囲に吐物が付着している。発声は可能で気道は開通している。頸静脈の怒張と頸部気管の右側偏位を認める。左胸部において、視診で胸郭膨隆、触診で握雪感、打診で鼓音および聴診で呼吸音の消失を認める。上肢に冷汗、手掌に湿潤を認める。

47 最も優先すべき処置はどれか。

- a 気管挿管
- b 胸腔穿刺
- c 昇圧薬投与
- d 赤血球輸血
- e 中心静脈カテーテル留置

48 呼吸状態と循環状態が安定したため全身 CT を施行したところ、前頭蓋底骨折、外傷性クモ膜下出血、多発肋骨骨折および腸管の拡張を認めた。

胃内減圧を目的とした胃管挿入の手順で誤っているのはどれか。

- a 仰臥位のまま挿入する。
- b 鼻から挿入する。
- c 抵抗に注意しながら挿入する。
- d 吸引して胃内容物を確認する。
- e 胸部エックス線写真で位置を確認する。

次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

47歳の男性。頭痛と発熱を主訴に来院した。

現病歴 : 3日前から微熱と全身倦怠感を自覚した。昨日から頭痛を自覚し、体温が38℃以上となったため、市販の解熱鎮痛薬を服用していた。今朝、起床時から、頭痛が増強するとともに、悪心が出現し、嘔吐した。38℃以上の発熱も持続するため、独歩で受診した。

既往歴 : 24歳時に急性虫垂炎で手術。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父が高血圧症。

現症 : 意識は清明。身長172 cm、体重70 kg。体温39.2℃。脈拍96/分、整。血圧124/70 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内と咽頭とに異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢に浮腫を認めない。

49 診断のためにまず確認すべき所見はどれか。

- a 眼振
- b 項部硬直
- c Barré 徴候
- d Babinski 徴候
- e Romberg 徴候

50 尿検査、血液検査および血液培養を行った。検査結果を示す。

尿所見：蛋白(－)、糖(－)、潜血(－)。血液所見：赤血球 462 万、Hb 14.2 g/dL、Ht 42%、白血球 11,300(好中球 68%、好酸球 1%、好塩基球 0%、単球 4%、リンパ球 27%)、血小板 28 万。血液生化学所見：総蛋白 7.3 g/dL、アルブミン 4.9 g/dL、総ビリルビン 0.9 mg/dL、直接ビリルビン 0.2 mg/dL、AST 24 U/L、ALT 18 U/L、LD 188 U/L(基準 120~245)、ALP 110 U/L(基準 38~113)、 γ -GT 41 U/L(基準 8~50)、アミラーゼ 130 U/L(基準 37~160)、CK 68 U/L(基準 30~140)、尿素窒素 18 mg/dL、クレアチニン 0.6 mg/dL、血糖 98 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 97 mEq/L。CRP 2.3 mg/dL。緊急で施行した頭部単純 CT で明らかな異常を認めなかった。

次に行うべき検査はどれか。

- a 脳波検査
- b 心エコー検査
- c 脳脊髄液検査
- d 針筋電図検査
- e 上部消化管内視鏡検査

